

## 声 明 文

——我々は文団連に対して断固として批議表明をする——

我々国共斗団総理と学部斗争委員会は、文化団体連合会が「対話の中から解決の糸口」として、永田菊四郎総長を招き、「文団連の集い」を開催するにあつて、我々は徹底的に文団連に対し批議表明をあらわすものである。又、日大斗争が真に解決するためには学生自らの強い連帯と団結の絆をもつてしか、二の目大斗争の勝利は絶対にあり得ない。現在日大斗争において国共斗が唯一の学生代表機関であり国共斗の学友護名は、現在の状況において決して中立の立場はあり得ないし、又、日大斗争を勝利するためには国共斗の下に集結すべきである。文団連の学友護名も同じである。文団連の学友護名・君達の行為はどんなに美名美文のフェーシに覆われても、真に学生を分断させることに他ならないことと多くの学友護名は気付くであらう。

いつも話し合いの無意味さは、我々は何後となく理事、教授連から味はれられてきた。しかし我々国共斗の力が強くなるにつれて彼等はウエエ作戦に出てきたし、教授連の声明もちらほら出てきた。しかしこれは我々の力がさう真に我々の闘いを通して団結が強固になればこそ、教授連を打ち上げらせたに他ならないことを確認しようではないか。単なる話し合いでは決して解決はあり得ないし、又闘いを踏まえた話し合いでなければならぬ。三者協に至ることは真に欺瞞的である。多くの学友護名、我々の斗争における主体は学生であり、我々一人一人であり、そこにおいて教授と理事とを並列に置くなどというものは全くナンセンスである。また、我々が獲得しなければならぬのは一体何なのか。真にそれは日大において学生権力による学生自治を勝ちとることである。それを実行するならば五夫スローガンの一つさえ欠くことは絶対にできないことは、もはや明らかであり、妥協によって、単なる物取り主義に埋没しては決してならない。

以上の懸案から、我々は文団連の学友護名に対し即時「集会」を中止して、そして我々国共斗団議に結集するよう要求する。

日本大学国共斗団総理と学部斗争委員

文化団体連合会